ＪＩＣＡ教育ナレッジマネジメントネットワーク（KMN） ニュースレター

教育だより 第 38 号 Jun 2023

目次

ニュース・イベント	（全体）離任のご挨拶（人間開発部　前部長）	2
ニュース・イベント	（全体）就任のご挨拶（人間開発部　部長）	2
国際動向・国際会議	（全体）GPE・ECW トップ対話　Friends of Education 第三回勉強会	3
国際動向・国際会議	（全体）ウクライナ教育セクター　支援方針・実施事業の概要	3
プロジェクト紹介　基礎教育	（ラオス）ラオス国初等教育における算数学習改善プロジェクト	4
プロジェクト紹介　基礎教育	（マリ）マリ「学校運営委員会支援プロジェクトフェーズ２」が終了し、「コミュニティ協働による子どもの学習の質改善プロジェクト」の討議議事録（R/D）が締結されました！	5
プロジェクト紹介　基礎教育	（モロッコ）モロッコ「公平な教育振興プロジェクトフェーズ２」の討議議事録（R/D）が締結されました！	6
プロジェクト紹介　高等教育	（東ティモール）「東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト・フェーズ２」の終了	6
プロジェクト紹介　高等教育	（タイ）「アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクトフェーズ４」の終了と「アセアン高度人材育成アドバイザー」の派遣開始	7
プロジェクト紹介　高等教育	（マレーシア）「マレーシア日本国際工科院マレーシア・ジャパンリンケージオフィス強化プロジェクト」の R/D 署名	8
世界で輝く協力隊	（全体）「算数学び隊」が途上国の教育の質向上に貢献	9
ｾｸﾀｰ横断・他機関と連携事例	（全体）「第 13 回教育セクターにおける大学有識者・JICA 勉強会・大学有識者/JICA 若手勉強会の開催」開催報告	9
ｾｸﾀｰ横断・他機関と連携事例	（全体）2023 年度教育協力ウィーク開催　プレアナウンス	10
KMN 活動報告	（全体）基礎教育・高等教育関連留学生との交流会	11
KMN 活動報告	（全体）2023 年度第 1 回教育 KMN 全体会合開催報告	12

ニュース・イベント

離任のご挨拶（人間開発部　前部長）

教育 KMN に参加している皆さんへ

この 4 月から関西学院大学国際教育・協力センターに特任教授として出向しています。授業の準備などで苦労していますが、途上国や国際協力に関心のある学生はみな熱心で、やりがいを感じています。関西方面に出張などありましたらぜひお立ち寄りください。

教育 KMN には、20 年ほど前の立上げ準備の時からずっとその活動に携わり、時に外から見守ってきました。一時活動がやや下火になった時もありましたが、最近はまた多くの皆さんが盛り上げてくれていて、とてもうれしく思っています。ずっと言い続けていることですが、事業と KMN は車の両輪であり、よりよい事業の実現や、組織・個人の専門性強化の観点から KMN が不可欠との思いに変わりはありません。

本来業務で忙しい中、さらに自主的な活動を進めることは大変ですが、だからこそ自分自身の力となり充実感も得られるのが KMN の活動です。私自身も KMN の自主勉強会や調査研究を通じてそのことを実感してきました。今後とも、一人でも多くの皆さんが KMN 活動の楽しさに触れ、さらに活動が盛り上がっていくことを願っています！

人間開発部　前部長　　佐久間　潤

ニュース・イベント

就任のご挨拶（人間開発部　部長）

4 月に人間開発部に着任しました。10 年ぶりに人間開発部、教育開発の世界に帰って来たことを、大変嬉しく思っています。教育への投資は決して無駄にならず、一人ひとりの将来、社会、国、世界を、より良いものにしていく礎です。

しかしながら一方で、教育には「正解」が無く、全ての人びとの認知能力、非認知能力が確実に向上する「万能な処方箋」はありません。だからこそ教育開発は試行錯誤の連続で、皆さん一人ひとりの工夫や努力が大きな付加価値をもたらす可能性があります。一人ひとりの子ども、生徒たちにとって、教育のその瞬間のチャンスは一度きりです。プロジェクトの手法、活動、インプットがどのような効果をもたらすのか、「感覚」でもって闇雲に進むのではなく、確信を持って取り組むことに最善の努力をしたいですね。その指針として、教育のグローバルアジェンダがあり、クラスターが完成しました。この指針のもと、より良い未来のために、ともに頑張って参りましょう。
宜しくお願いします。

人間開発部　部長　亀井　温子

国際動向・国際会議

GPE・ECW トップ対話　Friends of Education 第三回勉強会

Global Partnership for Education（GPE）による第三回国際教育協力勉強会が 2023 年 3 月 8 日に開催されました。公明党山口代表を含む国会議員、外務省、大学研究者、NGO、JICA（井本理事他）他から約 30 名が出席しました。

今回は GPE トップ Laura Frigenti 氏と Education Cannot Wait（ECW）トップ Yasmine Sherif 氏の来日に合わせて開催され、基調講演、ウクライナを事例とした国際教育協力の現場での連携にかかるパネルディスカッションが行われました。

勉強会では主に、緊急事態下の支援には様々なファンドや開発パートナー間と連携やマルチへの支援が有効性であることが述べられました。またマルチへの支援と並行して、ODA 全体の増額に向けた取り組みも必要であるというコメントも出ました。JICA からはウクライナ支援の状況及び GPE との連携実績を紹介し、開発パートナーとも連携して教育セクター全体にインパクトを与える協力を進めていることを共有しました。

人間開発部　基礎教育第二チーム　舘野　直子

国際動向・国際会議

ウクライナ教育セクター 支援方針・実施事業の概要

2022 年 2 月 24 日、ロシアがウクライナ侵攻を開始し、2023 年 4 月現在もウクライナ東部、南部地域を中心に戦闘が続いています。今年 2 月の時点でのウクライナ教育省発表では、440 の教育施設が完全破壊、3,151 を超える教育施設が被害を受けており、360 万人以上の子どもが安全に安心して学習する環境が奪われています。教育セクターでの被害額は 40 億ドルに上り、復旧・復興ニーズとしては 110 億ドル必要（2023 年 3 月時点）と試算されています。

破壊されたウウライナの学校

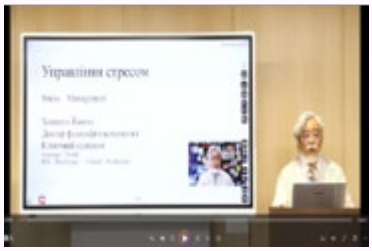
このような中、ウクライナ教育省は、被害を受けた教育施設の復旧を優先課題とし、学びのハブとなる Digital Learning Center（DLC）の建設を進めています。DLC には子どもがオンラインで学びを継続できるようパソコン、ラップトップ、プロジェクターといった教育資材が整備され、国内避難民となった小学校から高校までの子どもが学びを継続しています。

こうした状況を受け、JICA は DLC に対して教育資材を整備する無償資金協力を実施しています。学校が損傷・破壊された状況でも子どもたちの学びを止めないために、どこにいてもどのような状態でも教育を受けられるよう、遠隔教育の環境整備を支援しています。今後、ウクライナ教育省と連携し 85 カ所以上の DLC に学習機材を届ける計画です。

DLC にて学ぶ子ども達

加えて、ウクライナでは、戦時下における子どものストレスが大きな問題となっています。日本では東日本大震災の際、被災した子どものメンタルヘルスケアで多くの知見を得たことから、JICA では、東日本大震災の現場で実際にメンタルヘルスケアに携わった国内の第一人者の協力を得て、研修ビデオを作成しました。これら研修ビデオは、教員、心理カウンセラー、保護者などに届けられる予定です。

このように、JICA はハードとソフトの支援両方を効果的に実施し、ウクライナの子どもの学びの継続、心理的安定のために支援を行っています。



研修動画の講師を務めた冨永良喜先生

公認心理師・臨床心理士・兵庫県立大学名誉教授

人間開発部　基礎教育第一チーム　田口　晋平

プロジェクト紹介
基礎教育

ラオス国初等教育における算数学習改善プロジェクト
～7 年間に渡る活動が終了～

2016 年 2 月から 2023 年 4 月の 7 年間に渡り、株式会社パデコ及び東京書籍株式会社によって、ラオスにて実施された「ラオス国初等教育における算数学習改善プロジェクト」がこの度事業の終了を迎えました。ラオスでは、2010 年から技術協力プロジェクトを行っており、本プロジェクトは、初等教育（1 年から 5 年生）における算数カリキュラムの改訂及び導入・問題解決型授業を意識した 5 段階構成（1 段階:課題提示、2 段階:自力解決、3 段階:比較検討・ディスカッション、4 段階：演習問題、5 段階:まとめ）となっている教科書及び指導書の開発及び活用を包括的に支援し、算数の授業の質の向上を目指すデザインとなっています。本プロジェクトの重要な活動である教科書・指導書開発に関しては、ラオス側の算数教科書開発チームとともに協働で取り組み、次回の改訂時には自ら対応できるよう意識して技術移転を行いました。本活動の結果としては、教師が教科書の特徴に沿った授業を実施することで、児童の理解度は向上する可能性が示唆されました。また、更なる児童の学習改善に繋げていくためには、より多くの教員の教科知識を強化するだけでなく、新教科書・指導書を用いて、新算数カリキュラムが重視する指導法に則った授業を教員が実践できるようになることが重要であるとの教訓が得られました。今後も、本プロジェクトで得た成果・教訓を活かし、ラオスでの児童の学びの改善に向け尽力していきます。

教材開発の様子

開発された教科書を使う児童 1

開発された教科書を使う児童 2

人間開発部　基礎教育第一チーム　瀬戸口　和子

プロジェクト紹介
基礎教育

マリ「学校運営委員会支援プロジェクトフェーズ２」が終了し、「コミュニティ協働による子どもの学習の質改善プロジェクト」の討議議事録（R/D）が締結されました！

2022 年 12 月、マリ「学校運営委員会支援プロジェクトフェーズ 2 （PACGS2）」が業務完了を迎えました。このプロジェクトは、2011 年に開始したものの直後に現地情勢不安定化によって約 5 年間中断し、2017 年にようやく再開されたものです。しかし、再開後もマリ国内の軍の一部による騒乱や教員組合ストライキ、COVID19 により、渡航停止や計画変更を繰り返しましたが、その度に、国民教育省のカウンターパート（CADDE）や現地再委託先（OMAES）、専門家の皆さまのご尽力と臨機応変な対応により、一つ一つの活動と成果が達成されました。

また 2023 年 3 月には、マリ国民教育省大臣と JICA セネガル事務所森下所長の間で、同年 7 月からの「コミュニティ協働による子どもの学習の質改善プロジェクト」開始に向けた R/D が署名されました。このプロジェクトでは、PACGS2 の後継案件として、子どもたちの基礎学力向上を目指し、学校とコミュニティの協働による補習活動の持続性を強化します。サヘル等の紛争影響地域における効果的な事業事例となれるよう努めます！

PACGS2 におけるコミュニティ教育フォーラム

PACGS2 における補習活動

PACGS2 のカウンターパートと専門家

PACGS2 の最終 JCC（左から OMAES 長・JICA セネガル事務所長・CADDE 長・専門家総括）

「コミュニティ協働による子どもの学習の質改善プロジェクト」詳細計画策定調査協議議事録　教育大臣署名式（2022 年 6 月）

人間開発部　基礎教育第二チーム　園田　理沙

プロジェクト紹介 基礎教育

モロッコ「公平な教育振興プロジェクトフェーズ２」の討議議事録（R/D）が締結されました！

2023 年 3 月、モロッコ「公平な教育振興プロジェクトフェーズ２（PEEQ2）」開始に向け、モロッコ教育省事務次官と JICA モロッコ事務所伊藤所長の間で R/D が署名されました。

本プロジェクトでは、2014 年から 2018 年まで実施された「公平な教育振興プロジェクト（PEEQ1）」で開発された「学力格差是正モデル」と「学校改善プロジェクト」をその後の成果と課題をもとに強化し、カリキュラムや教員研修へ統合することで、算数・数学の教育と学習の質改善、及びその継続的実施を目指します。

R/D 署名式の様子

人間開発部　基礎教育第二チーム　園田　理沙

プロジェクト紹介 高等教育

「東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト・フェーズ２」の終了

2016 年 8 月より実施していた、東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト・フェーズ 2 が 2023 年 3 月末、コロナ禍による延長を経て、6 年 8 ヶ月のプロジェクト期間を終了しました。

東ティモールでは、1999 年の独立を決める住民投票後の騒乱によって、それまで東ティモールの教育現場を担っていたインドネシア人教員が母国に帰ってしまったことや、学校施設が破壊されてしまったことから、教育レベルの著しい低下が問題となっていました。そこで、JICA は 2002 年の無償資金協力による校舎改修・機材供与支援を皮切りに、東ティモール大学工学部の教育・研究能力の向上支援を行ってきました。

これまでの支援により、一定の教育・研究レベル向上は見られたものの、社会ニーズに応え得るレベルへの教育・研究能力が課題でした。そこで本プロジェクトでは東ティモール大学工学部が、「社会ニーズに対応した教育・研究機能が強化される」ことを目的に実施されました。

工学部は機械工学科、土木工学科など 5 つの学科があります。これらの学科が連携して活動するため、学科横断の組織である連携ユニット（Cooperation Unit）を工学部に立ち上げました。連携ユニットでは外部連携活動、共同研究、研究成果の発信などを、日本の支援大学の協力のもと実施いたしました。その結果、外部連携活動数は目標数を達成し、工学部紀要も年 1 回のペースで発行、プロジェクト期間内に 5 巻（発表論文数 94 本）を発刊することができました。

また学科横断の研究グループも立ち上げ、中でも防災研究グループは、2021 年 4 月 4 日に東ティモール全土を襲った、サイクロンによる洪水被害に対して、山口大学の支援を受けて調査を行い、工学部教官が東ティモール首相に直接調査結果を報告し、国の防災政策に大きく貢献しました。今後、工学部では引き続き社会ニーズ、地域のアカデミックな課題に対応していくべく、大学院修士課程の設立計画があり、JICA も引き続き支援していく予定です。

工学部紀要第５巻発刊セレモニー
（於：プロジェクト最後の合同調整委員会）

東ティモール大学工学部による洪水被害調査

人間開発部 高等教育チーム 高橋 敦

プロジェクト紹介 高等教育

「アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクトフェーズ４」の終了と「アセアン高度人材育成アドバイザー」の派遣開始

2001 年、ASEAN University Network (AUN)のサブネットワークとしてアセアン工学系高等教育ネットワーク（ASEAN University Network/Southeast Asia Engineering Education Development Network 以下、AUN/SEED-Net）が設立され、JICA は、2003 年から４フェーズに渡り計 20 年、技術協力プロジェクトを実施いたしました。
これまで AUN/SEED-Net は、ASEAN 各国の拠点大学（メンバー大学）の延べ 1400 名を超える若手教員の学位取得、域内および本邦大学他との共同研究や共同教育プログラムの実施、産学連携、学会の実施、学術ジャーナルの発刊等を通じ、メンバー大学の教育・研究水準の向上に貢献するとともに、ASEAN 域内・域外も含めた有力大学と本邦大学のネットワーク構築を行いました。

2023 年３月に技術協力プロジェクトは終了を迎え、現在は、AUN/SEED-Net の自律的、継続的な発展に向け、運営の主体を AUN に移管していくために、「アセアン高度人材育成アドバイザー」を派遣しています。
現在は、26 の ASEAN のメンバー大学と日本の１８の連携大学（Japanese Partner University）で構成されている本ネットワークは、今後 AUN/SEED-Net の機能を AUN へ移管することで、AUN 事務局が AUN/SEED-Net の運営ができるようになり、ASEAN 域外との連携も含め、大学間ネットワークが維持活用され、ひいては ASEAN、タイ、日本、その他の大学の連携により ASEAN 地域の高度人材の育成が促進・強化することに寄与していきます。

過去 20 年間の AUN/SEED-Net の歩みはこちらをご覧ください。
https://aunsec.org/application/files/7316/7645/4947/SN-20th-Anniversary-Booklet-resize.pdf

第 27 回運営管理委員会、Cooperative Framework（枠組み文書)の署名式の写真

AUN 事務局 Choltis 局長と人間開発部渡邊教育シニアエキスパートの写真。移管に向けた協議を行いました。

人間開発部 高等教育チーム 鈴木 友理

プロジェクト紹介
高等教育

「マレーシア日本国際工科院マレーシア・ジャパンリンケージオフィス強化プロジェクト」の R/D 署名

国際協力機構（JICA）は、4 月 10 日、ジョホールバルにて、マレーシア国政府との間で、技術協力プロジェクト「マレーシア日本国際工科院マレーシア・ジャパンリンケージオフィス強化プロジェクト」に関する討議議事録（Record of Discussions: R/D）に署名しました。

マレーシア日本国際工科院（MJIIT）は、研究重視・研究室中心の日本型工学教育により最先端の技術知識の習得を促進することを目指し、マレーシア工科大学の傘下に、2011 年 9 月に開校しました。JICA はこれまで、MJIIT に対し円借款事業および技術協力プロジェクトを通して教育研究機材の整備および日本型工学教育の導入支援等を行うことにより、マレーシアの国際競争力の強化、ASEAN の産業界に貢献する人材の輩出に寄与しました。また、JICA 海外協力隊の派遣も続けています。

本事業は MJIIT において、これまでの成果を活かしつつ大学連携および産学連携の能力を強化するため、マレーシア・ジャパンリンケージオフィス(MJL）を設立し、MJIIT の教育・研究力をさらに強化するものです。

MJL の設立・強化を通じて MJIIT が ASEAN と日本の大学・産業界との連携の重要なハブとなることに寄与し、SDGs ゴール 4（質の高い教育をみんなに）、ゴール 8（働きがいも経済成長も）、ゴール 9（産業と技術革新の基礎をつくろう）に貢献します。MJL の設立、MJL による日本の産業界との連携活動および日本の大学との連携による研究・教育活動拡大により、MJL が日本の産業界と本邦大学との持続的な連携窓口として強化されることを図り、もって MJIIT が ASEAN と日本の大学・産業界との連携の重要なハブとなることに寄与します。

R/D 署名式の写真。左が JICA マレーシア事務所の稲垣事務所長事務代行（当時）、右は、マレーシア工科大学の副学長 Prof. Datuk Ir. Ts. Dr. Ahmad Fauzi bin Ismail

MJIIT の外観

人間開発部 高等教育チーム 鈴木 友理

世界で輝く協力隊

「算数学び隊」が途上国の教育の質向上に貢献
日本の算数・数学教育の強みを活かして、JICA 海外協力隊員と連携

「算数学び隊」は、日本の算数・数学教育の強みを活かし、JICA 海外協力隊員と連携して途上国の教育の質向上を目指す活動です。

これまで地域ごとに定例会や 13 カ国の算数学び隊員計 39 名対象の全体会合など、本部・隊員による活動報告や交流会が行われました。会合では、各国の活動先の状況について情報を共有し、参加者同士で課題解決策を考えるきっかけとなりました。

また、本部のネットワークを生かして、22 年度はマラウイとラオスの隊員計 8 名にエプソン社からプロジェクターを貸与し、プロジェクターを活用した授業を実施しました。例えば、マラウイ隊員の田野辺隊員は、自身が作成した算数の教材を投影しながらの授業を実施、ラオスの久保隊員は本部と協同でプロジェクターを活用した効果測定を実施しました。引き続き、算数学び隊は隊員からのニーズに応えるために、課題共有の場を設け、本部と連携しながら活動を進めていきます。

ラオスの現地教員、プロジェクター活用授業

マラウイの子どもたちの様子

人間開発部 基礎教育第一チーム 吉村 美弥

セクター横断・他機関と連携事例

「第 13 回教育セクターにおける大学有識者・JICA 勉強会・大学有識者/JICA 若手勉強会の開催」開催報告

3 月 17 日（金）、「大学有識者・JICA 勉強会」が開催されました。
COVID-19 の影響などもあり、今回で 3 年ぶり 13 回目の開催となりました。久しぶりの開催となりましたが、オンライン・対面で合計約 90 名の大学有識者・JICA から参加がありました。

本勉強会の目的は、「①これまでの教育協力を振り返り、今後の教育協力のための Alternative Approach や Post SDGs に向けた議論を行うこと」、「②人的ネットワークを深めること」としております。

議事次第は以下の通りとなりますが、今回は積極的な議論を図るため、初めての試みとして、大学有識者/JICA 若手勉強会を事前に２回実施いたしました。若手勉強会では、大学有識者・JICA 勉強会でご発表を頂く『日本の国際教育協力-歴史と展望-』を事前に意見交換を行った上で、勉強会当日に大学有識者・JICA 勉強会若手からの代表質問を行ったことで、若手からの積極的な質疑にもつながり、活発な議論となりました。

【議事次第】

時間	内容
17:00-17:10	開会挨拶 JICA 佐久間潤　人間開発部長
17:10-17:50	日本の国際教育協力について ご発表： JICA 緒方貞子平和開発研究所 萱島信子　シニア・リサーチ・アドバイザー 早稲田大学 黒田一雄　教授
17:50-18:55	代表質問・オープンディスカッション 広島大学 坂田のぞみ　助教 JICA 人間開発部基礎教育 G 村田良太/吉村美弥 ※モデレーター　筑波大学　川口純　准教授
18:55-19:00	閉会挨拶 広島大学 石田洋子　教授

具体的には、教育協力の在り方や理論と実践の架橋となるため、どのような研究者と実務者がどのように連携が可能かについて議論が図られました。

今回の勉強会で議論を行った内容を一時的な議論を終えるのではなく、継続的な議論を通じて、今後、求められる教育協力の実現に向けた大学有識者・JICA 間の連携のために推進していきたいと思います。

大学有識者・JICA 勉強会の様子

人間開発部　基礎教育第一チーム　林　研吾

セクター横断・他機関と連携事例

2023 年度教育協力ウィーク開催　プレアナウンス

昨年度、合計 3500 名以上の方が参加登録された教育協力ウィーク。今年も幅広い関係者の情報共有、意見交換、知識創造、人脈形成等の機会を提供するとともに、今後の事業運営に資するプラットフォームの強化を目的として、コンサルタント、NGO/NPO、JICA の有志、及びご登壇者の共催で「第 3 回教育協力ウィーク」を 9 月 7 日（木）～9 日（土）の開催となりました！

7 月に詳細の情報発信予定となりますが、今年は昨年度と異なり、開催日に土曜を加えております。より多くの方からのご参加を心よりお待ちしています。

人間開発部　基礎教育第一チーム　林　研吾

基礎教育・高等教育関連留学生との交流会

【基礎教育】

3 月 23 日に留学生プログラム「子どもの学びの改善」で来日中の留学生を対象としたプログラムを実施しました。これは国内事業部が主催した 2 日間のネットワーキングセミナーの一部として開催されたものです。

人間開発部基礎教育グループ主催の本プログラムには、留学生 9 名、JICA 国際協力専門員 4 名、基礎教育グループ 11 名、地域部 3 名の計 18 名が参加しました。基礎教育グループからは、JICA の教育協力において現場での科学的エビデンスが政策・制度や事業実施に影響を与えた事例と、研修員の出身国で実施中の JICA 技術協力プロジェクトの概要を紹介しました。次に代表研修員 1 名が自身の研究について発表し、研修員間で活発な質疑応答が行われました。最後に、研究テーマに基づく少人数でのグループ分けを行い、専門員から助言を受けながら、それぞれの研究内容についての議論が交わされました。特に最後の交流会は研修員の満足度が高く、留学生と JICA 教育関係者の間及び留学生同士の学び合いとネットワーク強化に加え、帰国後の研修成果の活用に向けた意識づけを行うことができました。

人間開発部 基礎教育第一チーム 横井 恵子

【高等教育】

2023 年 3 月 23 日、JICA 国内事業部が JICA 研修員を一堂に集めて実施した「JICA 留学生ネットワーキングセミナー」の機会を捉え、人間開発部高等教育・社会保障グループの個別プログラムを実施しました。高等教育分野拠点大学の長期研修員 14 名（インド、ケニア、カンボジア、エジプト、ウズベキスタンなど）が参加しました。留学生のネットワーキングを目的に実施し、当日は、元 JICA 研修員（SEED-Net 研修員として北大博士課程を卒業したタイチュラロンコン大学の教員）による経験談の共有から始まり、上智大学梅宮教授による「JICA 長期研修員に期待すること」と題した講義、渡邊国際協力専門員による今後のネットワークの作り方に係る講義、グループディスカッションを通じて JICA 関係者及び留学生間の学び合いとネットワーク強化を行いました。研修員からは、対面で参加することができ、ネットワークが強まったとの声があり、アンケート結果で確認した満足度は「高い」が 100%となりました。

人間開発部 高等教育チーム 村田 拓弥

2023 年度第 1 回教育 KMN 全体会合開催報告

6 月 1 日に 115 名余の参加を得て開催いたしました。冒頭、今年 4 月に人間開発部長に就任された亀井さんから教育 KMN 活動に期待することとして、①本気で本業として取り組む、②好きなことに好きなだけ取り組む、③繋がりたい人と繋がる場として活用する、という熱き激励のメッセージを頂きました。続いて KMN マネージャー小林次長、副マネージャー上田次長よりご挨拶を頂き、具体的な成果に繋がるタスク活動の推進に期待が寄せられました。その後、基礎教育 9 タスク、高等教育分野 6 タスクの各リーダーから 2022 年度活動総括と 2023 年度活動計画を発表頂きました。今年度も切磋琢磨し教育 KMN 活動を盛り上げてまいります。次回は 11 月頃にタスクの中間レビュー会合を開催予定です。

教育 KMN タスクでは年中無休でタスクメンバーを公募中です。教育協力にご関心をお持ちの皆様（JICA 内となります）の積極的なご参加をお待ちしています。ご関心ある方はこちらをご確認ください！→★★メンバー募集（通年）★★教育ナレッジマネジメントネットワーク（教育 KMN）：タスクメンバー（基礎教育分野）の公募について（sharepoint.com）（※JICA 関係者のみアクセス可能なサイトです）

教育 KMN 事務局一同

【編集後記】

年度が替わり、今年もたくさんの方々をお見送りし、また、お迎えしました。ちょうど、人間開発部長も交代のタイミングでした。この時期は教育 KMN メーリングリストの変更も多く、新しい人がまたメーリングリストに入ってくれたんだ、だけでなく、この人が戻ってきてくれたんだ、などと思いを馳せながら、KMN に関心を持ってくれている方が増えていくことに楽しみを感じています。この「教育だより」は、今回も幅広い分野から様々なトピックをたっぷりの量でお届けしています。新しく読み始めてくださった方にも、長いお付き合いの方にも、楽しんでもらえるような情報をお伝えしていきたいと思います。皆さんも「これは」と思うものがありましたらぜひお知らせください。

人間開発部　基礎教育第一チーム　課長　中条　典彦

「教育ナレッジマネジメントネットワーク（KMN）」とは

JICA 教育ナレッジマネジメントネットワーク(KMN)は、JICA の教育協力事業の質向上を目標に、JICA の教育協力に関する知見や経験を一元的に蓄積し、事業に活かすとともに対外的に発信するために、人間開発部を中心に活動を行っています。具体的には、①戦略（事業戦略、ドナー連携等）、②ナレッジの創造（プロジェクト研究、インパクト評価等）、③ナレッジの共有（民間・大学とのネットワーキング）、④広報（ナレッジの蓄積・発信）等の活動を実施しています。「教育だより」では、こうした教育 KMN の取組のほか、教育協力に関わる国際的な動向や実施中の案件情報等をあわせてお伝えしていきます。教育 KMN および JICA 基礎教育、高等・技術教育、社会保障グループからの各種お知らせを希望の方は、

(1)名前、(2)ふりがな、(3)所属、(4)役職、(5)職業、(6)E メールアドレスを明記のうえ、kadaishien-ningen@jica.go.jp までお送りください。